

## 担い手部門

【未来を切り拓く新規就農の部】



### 株式会社 細谷農PROJECT

技術を極める若き匠の野菜専作経営へのチャレンジ!

所在地/大崎市清水字野口田中  
品目/トマト、ねぎほか  
作付面積/トマト42a、ねぎほか野菜25a  
構成員/役員2名、社員1名、パート5名



社長の細谷亮太氏は、平成27年にUターンし、父親の元でトマト栽培技術を習得した後に独立、平成30年には規模拡大を見据えて法人を

設立しました。計画的な施設整備により、施設トマト栽培を42aまで拡大し、新規就農者による野菜専作法人として経営発展を遂げています。

継承した篤農技術をベースに、ICT機器を活用したデータに基づく栽培管理を組み合わせることで、徹底した観察眼



と先を読む管理技術に磨きをかけ、夏秋トマトで18t/10aという県内では驚異的な高単収を実現しています。

法人の経営発展のためには人材育成が最も重要と捉え、働きやすい環境を整備して就農予定の研修生等を積極的に雇用し、技術指導を行っています。



## 農山漁村活性化部門



### 横岡稲倉そば生産組合

そばの力で農村集落を次世代へつなぐ

所在地/にかほ市象潟町横岡字砂田  
品目/そば  
作付面積/78.2ha  
構成戸数/11戸

そば栽培の振興により横岡地区の農地を守りたいの思いから、平成27年に既存のそば生産組合を改称し、「横岡稲倉そば生産組合」が誕生しました。

そば栽培に適さない水はけの悪い農地が多い中、排水対

策を徹底し、土壌診断に基づく施肥を行うなど、高度な栽培技術により、高い単収と品質を実現しています。こうした先駆的な取組が評価され、令和2年度に全国そば優良生産表彰事業で、日本蕎麦協会会長賞を受賞しています。

地域の農地を次世代へつなぐため、積極的に耕作放棄地の集積を進めており、夏そばの作付面積は、市全体の46%を占めるまでに拡大しています。また、そば打ち体験を通じて、食育活動や農村交流の場を創出するなど、地域活性化にも貢献しています。



# 令和3年度 ふるさと秋田 農林水産 大賞



産地部門

★JA秋田ふるさと桃部会  
(農林水産大臣賞・農林水産大賞)

担い手部門

【経営体の部】

★沢田賢市氏  
(農林水産大賞)

★農事組合法人 あきのみや  
(農林水産大臣賞・農林水産大賞)

【未来を切り拓く新規就農の部】

★株式会社 細谷農PROJECT  
(農林水産大賞)

農山漁村活性化部門

★横岡稲倉そば生産組合  
(農林水産大賞)

秋田県



# ふるさと秋田 農林水産 大賞

## 〔大賞の概要〕

先人が作り上げた美田や農産物、豊富な森林資源などを次の世代に受け継いでいくため、「ふるさと秋田農林水産ビジョン」の目指す姿の実現に向けて、模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている農林漁業者等を表彰するとともに、その取組を広く普及し、魅力ある農林水産業と農村漁村づくりを推進します。

## 〔各部門の表彰対象〕

### 産地部門

産地の特徴を活かし、積極的な産地拡大に取り組む農業者等で組織する集団

### 担い手部門

#### 【経営体の部】

農業・漁業経営で優良な実績を上げ、地域のモデルとなる個人や法人等

#### 【未来を切り拓く新規就農の部】

地域の担い手として、活躍が見込まれる新規就農者や農外からの参入者等

### 農山漁村活性化部門

6次産業化に取り組む、食育、直売活動、耕作放棄地活用、グリーン・ツーリズム等、地域を活性化している法人、集落、集団等

## 産地部門

大賞

農林水産大臣賞

## JA秋田ふるさと桃部会

味で勝負! 雪害にも負けない「ふるさとの桃」

所在地/横手市増田町増田字平鹿  
品目/桃  
栽培規模/28.4ha  
会員数/102名



桃は、8月上旬から9月上旬にかけて収穫期を迎えるため、台風の影響を受けにくく、夏場の収入確保や早期成園化が見込める品目として、平成

3年頃から導入が進んでいます。平成23年の雪害復旧を契機に栽培面積が大幅に増加して以降、産地規模は年々拡大しており、令和2年に販売額1億円を突破しました。

先進産地との技術交流を活発に行っており、枝の配置を調整して高品質・高収量を実現する「ハイブリッド方式」や、枝吊りにより雪害を防止する「センターポール方式」等、新し

い技術の導入も始まっています。

令和2年度の豪雪で大きな被害を受けましたが、「ふるさとの桃」を心待ちにしている多くのファンのため、産地が丸となって早期の復興に取り組んでいます。



## 担い手部門

### 【経営体の部】

大賞

## 沢田 賢市 氏

冷涼中山間地のメリットを活かして  
鹿角いちごの周年出荷を実践!

所在地/鹿角市十和田錦木字冠田  
品目/水稲、いちご  
作付面積/水稲16ha、いちご720坪

営農大学校在籍時から、いちご栽培の研修を通して鹿角に適した品種や作型を模索するなど意欲的に取り組み、昭和63年の就農と同時に、管内初となるいちごの施設栽培を開始、高単価が見込める冬から春までの安定出荷を実現し



ました。

冷涼な中山間地域のメリットを活かして、平成10年には、夏季の需要を見越した四季成り品種による夏秋穫り作型を導入し、施設いちごの周年出荷を確立しました。

就農から34年となる現在、先進技術の導入等に精力的に取り組む傍らで、鹿角農業士会会長として、作目を問わず若手農業者の育成に努めており、長年のいちご生産で培った高い栽培技術と広い人脈、そして持ち前の親しみやすさから、地域農業のリーダー的な存在となっています。



### 【経営体の部】

大賞

農林水産大臣賞

## 農事組合法人 あきのみや

山間地でも若者が夢を抱く農業生産を!

所在地/湯沢市秋ノ宮字山岸  
品目/水稲、大豆、白小豆、小ギク、いちご、セリ  
経営面積/85ha(水稲33ha、大豆47ha、白小豆0.4ha、小ギク1.8ha、いちご0.3haほか)  
構成戸数/22戸

平成19年に発足した水稲防除組織を母体として、平成22年に法人を設立し、平成30年にメガ団地事業で小ギク調製施設を、令和3年にライスセンターを整備しました。

「農業は私たちにおまかせください、大切な農地を私たちがお手伝いします」をモットーに、水稲・大豆のほか園芸品目にも取り組んでおり、山間部の小規模な農地が多い中、適期に確実に作業を行えるよう、日々、機械操作技術の研鑽に



励み、生産性の向上に努めています。

豪雪地帯において周年農業を実現するべく、春の「秋ノ宮いちご」を皮切りに夏～秋の小ギク、冬のセリ等、先人が築いてきた地域特産品目の取組に加え、東京の老舗和菓子店との契約により、新たに白小豆の栽培にも挑戦しています。

